

平成22年度中間期の営業の概況(連結)

金融経済情勢

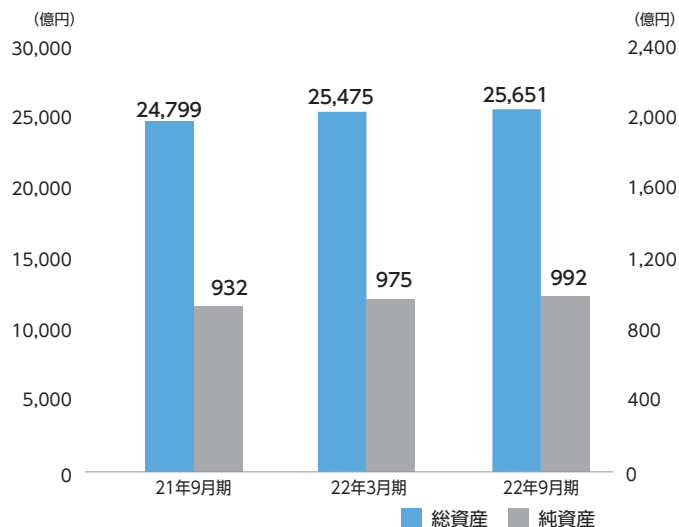
当中間期のわが国経済は、海外需要に支えられ輸出と生産の持ち直しによる回復基調が続きましたが、設備投資の回復力が弱く、個人消費の伸び悩みや公共投資の大幅な減少など国内需要の弱さから回復ペースは徐々に鈍化しました。また、急激な円高の進行などで先行き不透明感が強まりました。当行の主要地盤であります四国地区の経済は、観光が堅調に推移したほか、個人消費において一部に持ち直しの動きがみられました。また、設備投資、雇用情勢も低水準ながら緩やかな持ち直しの動きがみられました。金融面では、円・ドル相場で急激な円高が進行し、政府は2004年以来となる円売り介入を実施しましたが、9月末には83円台となり、円高懸念を払拭するには至りませんでした。また、日経平均株価も弱い動きで推移し、期首の1万1千円台から9月末には9千円台まで下落しました。長期金利も低下傾向で、期首の1.1%台から9月末には0.9%台へ低下しました。

決算の概要

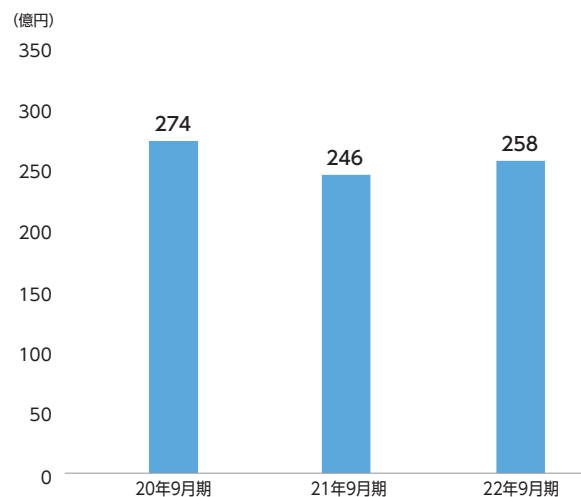
経常収益は、国債等債券売却益や国債等債券償還益の増加によるその他業務収益の増加等により、前年同期比11億68百万円増加し258億28百万円となりました。経常費用は、預金利息の減少等による資金調達費用の減少、睡眠預金払戻損失引当金繰入額の減少等によるその他経常費用の減少、諸費用の削減効果による営業経費の減少等により、前年同期比19億24百万円減少し221億36百万円となりました。

この結果、経常利益は、前年同期比30億92百万円増加し36億92百万円となりました。中間純利益は、償却債権取立益の減少や減損損失の増加等により、前年同期比8億58百万円増加し25億53百万円となりました。

● 総資産額・純資産額



● 経常収益



● 経常利益・中間純利益

